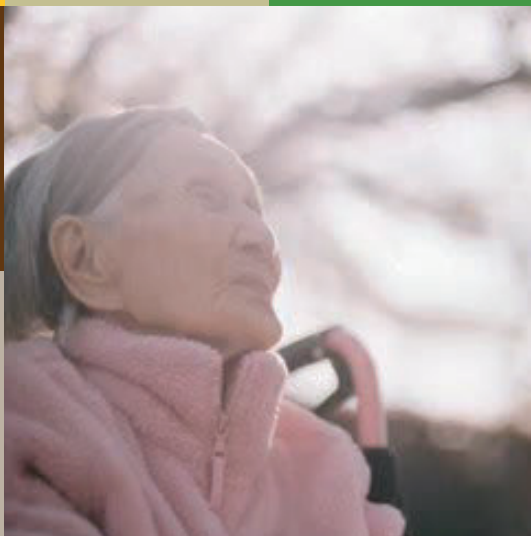




AbG25

HOUYUKAI 25th ANNIVERSARY



Life

Well-Being

People

Grow

これからも、Action by Glocalization

1999年設立以来、私たちは地域の皆様に寄り添ってまいりました。この25年で培った経験と技術をもとに、これからの未来の地域社会を描くため、「“地域の人々が育つことで、生活が革新する”という仕組みを世界で発信してゆく」をミッションに掲げ、私たちは常に、地球規模で考え、足元から行動します。

—— さあ これからも、**Action by Glocalization**。

Build

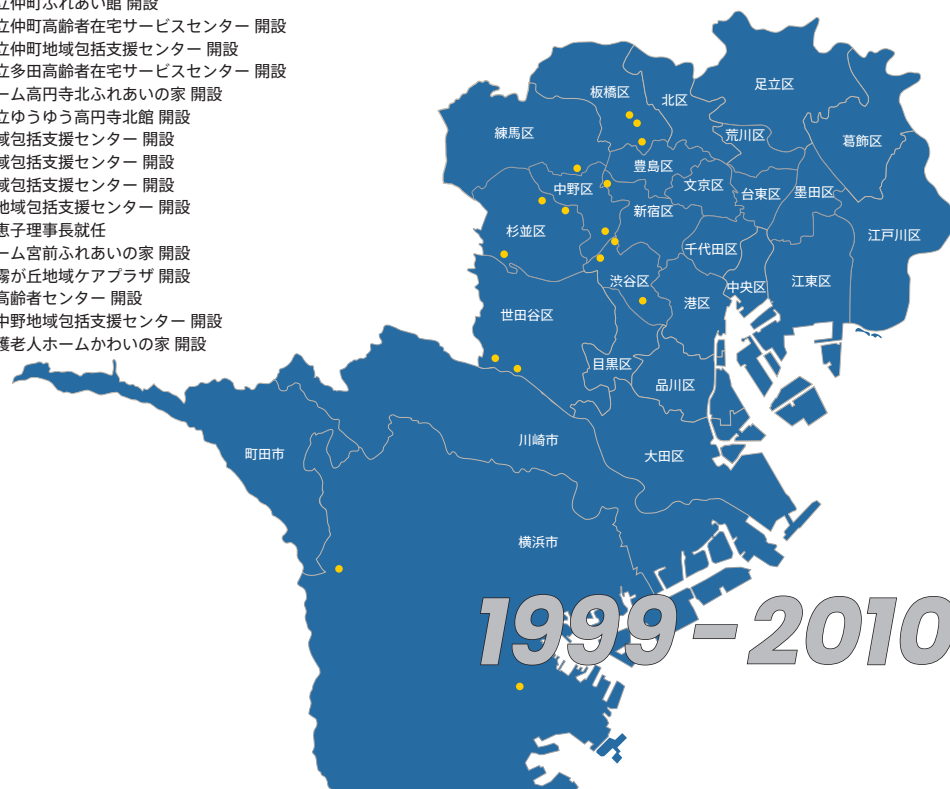
Community





- 1999年 11月 法人設立
- 2000年 6月 代沢在宅介護支援センター 開設
奉優会代沢居宅介護支援事業所 開設
- 2001年 3月 等々力の家在宅介護支援センター 開設
奉優会等々力の家居宅介護支援事業所 開設
4月 特別養護老人ホーム等々力の家 開設
等々力の家デイホーム 開設
- 10月 等々力の家訪問介護ステーション 開設
- 2002年 2月 奥沢在宅介護支援センター 開設
奉優会奥沢居宅介護支援事業所 開設
渋谷区ひがし健康プラザ
高齢者在宅サービスセンター 受託
- 9月 渋谷区ケアステーション笹幡本町
高齢者在宅サービスセンター 受託
- 10月 デイホーム野沢 開設
- 2003年 4月 中野区弥生高齢者福祉センター 開設
弥生高齢者在宅サービスセンター 開設
中野区南部在宅介護支援センター 開設
奉優会弥生の園居宅介護支援事業所 開設
中野区立堀江高齢者福祉センター 開設
- 2004年 4月 法人事務局移転
- 10月 練馬区立豊玉高齢者センター 開設
- 2005年 8月 デイホーム奥沢 開設

- 2006年 2月 ISO9001認証取得(等々力の家)
- 4月 板橋区立仲町ふれあい館 開設
板橋区立仲町高齢者在宅サービスセンター 開設
板橋区立仲町地域包括支援センター 開設
中野区立多田高齢者在宅サービスセンター 開設
デイホーム高円寺北ふれあいの家 開設
杉並区立ゆうゆう高円寺北館 開設
代沢地域包括支援センター 開設
深沢地域包括支援センター 開設
奥沢地域包括支援センター 開設
南中野地域包括支援センター 開設
- 2008年 3月 香取真恵子理事長就任
- 4月 デイホーム宮前ふれあいの家 開設
横浜市霧が丘地域ケアプラザ 開設
- 2009年 4月 目黒区高齢者センター 開設
中野区中野地域包括支援センター 開設
- 2010年 4月 特別養護老人ホームかわいの家 開設



1999-2010



2008

2010

2012

2014

2016

香取真恵子
理事長
就任

EPA介護福祉士候補生
受け入れ開始

- 2011年**
- 4月 港区立白金いきいきプラザ 開設
 - 港区立豊岡いきいきプラザ 開設
 - 港区立白金いきいきプラザ 開設
 - 港区立高輪いきいきプラザ 開設
 - 港区立特別養護老人ホーム白金の森 運営開始
 - 港区立特別養護老人ホーム白金の森 運営開始
 - 港区立高齢者在宅サービスセンター白金の森 運営開始
 - 港区立地域包括支援センター白金の森 運営開始
 - 10月 奉優デイサービス池尻 開設
 - 優っくりグループホーム池尻 開設
 - 優っくり小規模多機能介護池尻 開設
 - 12月 優っくりグループホーム石神井台辺 開設
 - 優っくり小規模多機能介護石神井台辺 開設
- 2012年**
- 4月 渋谷区ケアハウスせせらぎ 運営開始
 - 渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ 短期入所生活介護 運営開始
 - 渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ 高齢者在宅サービスセンター 運営開始
 - 千代田区立西神田高齢者在宅サービスセンター 運営開始
 - 練馬区栄町敬老館 運営開始
 - 6月 香取真恵子前理事長「旭日単光章」の拝受
 - 11月 優っくり小規模多機能介護三軒茶屋 開設
 - 12月 優っくりグループホーム喜多見 開設
 - 優っくり小規模多機能介護喜多見 開設
 - 優っくりデイサービス喜多見 開設
- 2013年**
- 2月 優っくりグループホーム鎌田 開設
 - 4月 練馬区練馬高齢者相談センター中村橋支所 運営開始
 - 練馬区立中村敬老館 運営開始
 - 6月 フォーユーショートステイ淡路 開設
 - フォーユーデイサービス淡路 開設
 - 新宿区立西新宿シニア活動館 運営開始

- 2014年**
- 2月 渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ 地域密着型特別養護老人ホーム 運営開始
 - 3月 特別養護老人ホーム奉優の家 開設
 - 優っくりグループホーム町田森野 開設
 - 優っくり小規模多機能介護町田森野 開設
 - 4月 川崎市久末老人デイサービスセンター 運営開始
 - 川崎市久末居宅介護支援センター 運営開始
 - 奉優デイサービス堀江 開設
 - 新宿区立北新宿第二地域交流館 運営開始
 - 港区立高輪区民センター 運営開始
 - 10月 特別養護老人ホーム沓掛ホーム 運営開始
 - 特別養護老人ホーム沓掛ホーム短期入所生活介護 運営開始
 - 優っくりデイサービス沓掛 運営開始
 - 沓掛ホーム居宅介護支援事業所 運営開始
- 2015年**
- 3月 目黒区田道地域密着型デイサービス 運営開始
 - 目黒区田道小規模多機能型居宅介護事業所 運営開始
 - 4月 江東区枝川高齢者在宅サービスセンター 運営開始
 - 江東区枝川在宅介護支援センター 運営開始
 - 練馬区石神井高齢者相談センター 運営開始
 - 7月 中央区立特別養護老人ホームマイホームはるみ 運営開始
 - 中央区立特別養護老人ホームマイホームはるみ 運営開始
- 2016年**
- 2月 優っくりグループホーム杉並沓掛 開設
 - 4月 成増高齢者在宅サービスセンター 運営開始
 - 江東区城東ふれあいセンター 運営開始
 - 江東区亀戸ふれあいセンター 運営開始
 - 板橋区立熊野地域包括支援センター 運営開始
 - 枝川長寿サポートセンター 運営開始
 - 6月 法人事務局移転
 - くるみんマーク取得

- 2017年**
- 7月 優っくり小規模多機能介護新宿西落合 開設
 - 優っくりグループホーム新宿西落合 開設
 - 優っくりショートステイ新宿西落合 開設
 - 南中野地域包括支援センター 移転
 - 10月 北区十条地域包括支援センター 運営開始
 - 1月 優っくり小規模多機能介護中央湊 運営開始
 - 優っくりグループホーム中央湊 運営開始
 - 2月 トモニマーク取得
 - 9月 奉優デイサービスセンター北 運営開始
- 2018年**
- 2月 ISO9001認証取得(白金の森)
 - 4月 優っくり小規模多機能介護乃木坂 運営開始
 - 5月 えるぼしマーク取得(2つ星)
 - 7月 特別養護老人ホーム下馬の家 開設
 - 優っくり小規模多機能介護下馬 開設
 - 優っくりグループホーム下馬 開設
 - 8月 渋谷区ケアステーション笹幡
 - 高齢者在宅サービスセンター認知症対応型通所介護 運営開始
- 2019年**
- 11月 優っくりグループホーム江東北砂 開設
 - 1月 「東京都女性活躍推進大賞」優秀賞の受賞
 - 2月 ISO9001認証取得(マイホームはるみ)
 - 4月 奉優デイサービス川崎有馬 開設
 - ふじみ野市立介護予防センター 運営開始
 - 久末居宅介護支援センター 移転
 - 7月 特別養護老人ホーム目黒中央の家 開設
 - 目黒中央の家ショートステイ 開設
 - 優っくり小規模多機能介護目黒中央 開設
 - 優っくり保育園 開設

トモニマーク取得



くるみんマーク取得





2025

ISO9001認証
取得(マイホームはるみ)



JQA-QMA12659

2023年

- 4月 優くくり小規模多機能介護橋栄町 開設
優くくりグループホーム板橋栄町 開設
渋谷区つばめの里・本町東 運営開始
渋谷区つばめの里・本町東高齢者在宅サービスセンター 運営開始
渋谷区グループホームつばめの里・本町東 運営開始
特別養護老人ホーム みどりの苑 運営開始
奉優デイサービスみどりの苑 運営開始
奉優会みどりの苑居宅介護支援事業所 開設
江東区亀戸福祉会館 運営開始
港区神応いきいきプラザ 運営開始
墨田区いきいきプラザ 運営開始
中村かしわ地域包括支援センター 運営開始
- 6月 香取寛理事長就任
- 8月 特別養護老人ホーム弦巻の家 開設
優くくり看護小規模多機能介護弦巻 開設
- 11月 ケアホームS两国 運営開始
新宿区立戸山シニア活動館 運営開始

2024年

- 2月 優くくり訪問看護豊島南長崎 運営開始
- 4月 荒川区立東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター 運営開始
品川区立北品川ゆうゆうプラザ 運営開始
地域包括支援センターかすみがおか 運営開始
- 9月 優くくり看護小規模多機能介護两国 開設
- 12月 品川区立杜松特別養護老人ホーム 運営開始
品川区立杜松倶楽部 運営開始
品川区立グループホーム杜松 運営開始

2025年

- 4月 渋谷区グループホーム恵比寿西二丁目 運営開始
渋谷区恵比寿西二丁目高齢者在宅サービスセンター 運営開始
品川区立杜松在宅介護支援センター 運営開始
世田谷区立ひだまり友遊会館 運営開始
- 5月 特別養護老人ホーム代田の家 開設
優くくり看護小規模多機能介護代田 開設

A map of the Greater Tokyo Area, including Tokyo, Kanagawa, Chiba, and Saitama. The map is color-coded by region: Tokyo (light blue), Kanagawa (light green), Chiba (light orange), and Saitama (light purple). Yellow dots represent population projections for 2011-2025. The dots are concentrated in the Tokyo metropolitan area, particularly in the central and eastern parts. The text '2011-2025' is written in large, bold, black letters across the bottom of the map.

2011-2025

F O U N D E R M E S S A G E

創業の志と歩み



HOUYUKAI



1994年に全面的に改定された新ゴールドプランによって2000年に向けて新しい介護保険制度による在宅介護サービスが進められ、以前から介護現場を支えてきた家政婦たちの職場が失われようとしていました。

病院の付き添い人や家政婦として高齢者の介護をしてきた女性たちの働く場所を守り、安心して暮らし続けられる環境を作るため、1964年から私が営んできた看護婦政府紹介業の株式会社大橋サービスの業態転換と寄付を実施して、介護保険制度が施行される直前の1999年に、多くの方々のご協力で社会福祉法人奉優会を設立することができました。

それには医師であった夫、香取 勲の社会貢献活動が非常に役に立ってくれました。

設立当初から「地域に開かれた福祉」を念頭に、高齢者の尊厳のある生活を守ることと同時に、働く女性の職場や雇用を改善していくことにもこだわり、数々の自立支援サービスの提供や、介護・福祉職の社会的地位も高まる努力をいたしました。

活動として首都圏都市部の高齢者向け、社会福祉事業領域に特化し、資源を集中したことで、効率よく自立支援サービスを提供することができ、また多くの社会福祉事業を広げることができました。

そのような時、天皇后両陛下お二人揃っての行幸啓が当法人にございました。

お二人にとって即位して初めてとなる、敬老の行幸啓だったとの事を後で伺い、大変に緊張し光栄に感じました。

その後、公共の数々のご支援を得て施設を設立開設いたしました。

中でも平成31年に東京都女性活躍推進大賞優秀賞を当法人が頂戴した事は本当に嬉しく忘れられないことです。社会福祉事業を行い、多くの方々に接して参りましたが、いま力を入れているのは「認知症になっても自分らしく生きる」ご利用者にはこのような環境を整えることを今優先すべきことだと心から思っております。

認知症は加齢に伴い、誰がなっても不思議ではないという理

解が広く浸透され始めております。

このたび「認知症政策推進大綱」が策定されました。

基本的な考え方は、認知症は誰もがなり得るものであり、発症を遅らせ認知症になっても、希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指して、本人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を両輪として政策を推進していくと言うものです。生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、地域の理解と協力を得ながら、本人が希望を持って前向きに力を生かしていくことで、住み慣れた地域で尊厳が守られ、自分らしく生き続けることができる社会を目指すということです。

25周年にあたり、より一層社会参加活動に力を入れ、認知症の方も地域の方と親しく交流して自信を持って自分らしく暮らせる社会を作っていただきたいと願っております。

そして、おかげ様でわたくしも平成24年6月5日に勲記・勲章 旭日単光章の栄誉に浴することができました。

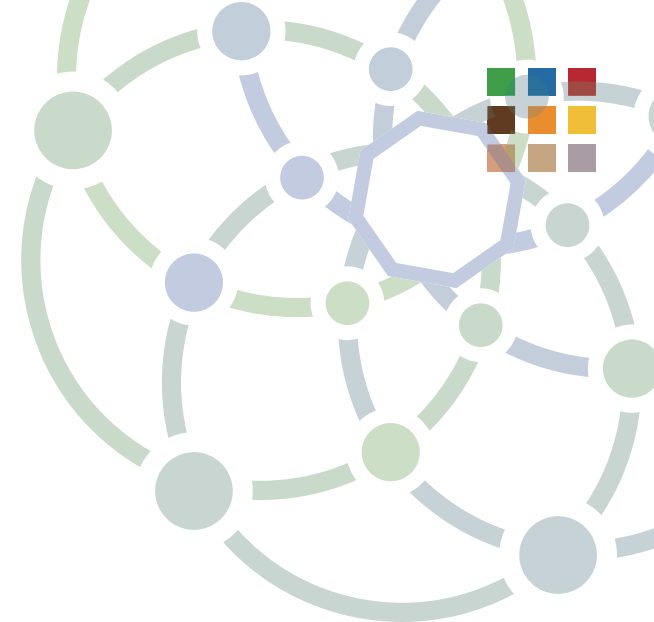
そしてまた、その秋には天皇陛下様より園遊会にまでお招きいただくこととなり感謝の極みでございます。

今後はこの栄誉にはじることなく、一層精進していきたいと深く感動しております。



社会福祉法人奉優会
特別顧問

香取 眞恵子



在宅福祉の拠点としての総合的展開を！！

奉優会創立二十五周年を心からお祝い申し上げます。

創業当時から評議員を務めておる私の立場から、お話ししたいことは沢山ありますが、何はともあれ香取家と我が家は距離的にも近くあり、いわば家族付き合いの関係でいました。

特に家内(礼子)が元気で居た頃は、一人息子の^{のふあき}宣睦と三人で伊豆別荘に毎年のようにご厄介になり、楽しい一刻を過ごさせていただきました。そんなご縁もあり、香取 勲先生のご逝去に際しては、香取家のご希望もあり、葬儀委員長を務めさせていただいたこともありました。その後の三人の息子さん達が仲良く協力していける一助になればと思ったからです。

ご案内のように、やさしい手(株)は香取 眞恵子さんの指導力と長男の幹さんの調整力で全国的にも注目されるシルバーサービスとなりました。また三男の勲さんも父君の医院を引継ぎ、より発展させていて、いよいよ寛さんの行方に焦点が絞られたとき、勲先生の古くからのご友人の佐藤 嘉彦先生と私が、ぜひ寛さんを奉優会の常務理事にと推薦し、そのような経緯を経て現理事長になられたわけです。

それは、単に次男としての役割分担からではなく、寛さんの潜在力に期待したからです。

奉優会の発足にあたって、私の友人、手塚 俊次君が社長を務めている福祉総研(株)で委託研究をいただくなどして、従来

の福祉法人のように特別養護老人ホーム設立のためだけでなく、二一世紀を展望して在宅福祉の拠点としての方向を定めました。寛さんはそれを立派に引継ぎ、全国でも有数の社会福祉法人に発展させました。ちなみに、私が近年まで関わってきた浴風会(今年が創立百年を迎えた老舗法人)の約一・五倍の事業規模にしてしまいました。それは、私が主催している福祉法人経営学会第十回大会(令和七年 三月二十一日)で紹介したように、その創業の理念と共に、全国でも稀有な法人本部の体制整備と地域貢献に優れた展開があったからです。

それは、やさしい手という優良企業から分岐した社会福祉法人奉優会の特徴といえます。法人執行部はもちろん、職員スタッフに至るまで企業的精神が行き届いている公益法人はきわめて稀です。とくに人材確保に関しては、やさしい手からの幹部出向に加えて社内の研修体制の充実は目を見張るものがあります。

現在、かつてのようにイコールフットINGに反する福祉法人叩きは鳴りを潜めましたが、まだその後遺症は残っています。そうした状況という下で、奉優会は、わが国の社会福祉法人の優れたモデルの一つとして、胸を張って、より多くの社会貢献と合理的なマネジメントの成果を誇ってください。

私としても、奉優会のこれまでの実績を福祉法人経営学会の優良会員として、他の優れた法人と共に、全国的にも紹介してゆ

きたいと思っています。

いよいよ二十一世紀の中頃までに、財政緊縮の下で法人経営は厳しさを増していきますが、柔軟な企業の体制を生かし、全国の社会福祉法人のモデルとして、これまで以上に活躍することを祈っております。

国立人口問題研究所
名誉所長

京極 高宣



等々力の家で学んだ“支え合い”の感覚って、 大きな財産です。

本日はお忙しい中、奉優会25周年記念の座談会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。今日は、法人を支えてくださったご家族の皆さまと、元等々力の家の施設長をされていた**山川常務・川口常務**をお迎えして、これまでの歩みや思い出、そしてこれからの未来について語り合いたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。まずはご家族の皆さまをご紹介します。久保さん、畑下さん、毛利さんです。

等々力の家との出会いと思い出

では最初のテーマ、「等々力の家との出会いと思い出」について、お話を聞かせていただけますか？



うちは、特養の入所を申し込んでから7年待ったんです。三軒茶屋とか千歳船橋、尾山台の施設から選べたんですけど、最終的に「等々力の家なら4月に入れます」って言われて、「じゃあ待ちます」って。それでようやく入所できました。



7年ですか、それは本当に長かったですね。



はい、父も高齢でしたし、できるだけ家から近い場所が良かったです。通っていた病院も遠くて、毎回鶴巻温泉(病院)まで行くのは本当に大変でした。



私はね、たまたま仕事であの辺りを通って空き地に看板が立ったのを見て、「何ができるんだろう？」って思って電話してみたんです。たしか中森さん(当時の施設長)が電話に出てくれたんじゃないかな。そこから役所にも聞きに行って…うちも母の在宅介護で限界を感じていたときでした。



うちも、もともと近所に住んでいて、毛利さんのおばあちゃんが先に入ってたんですよ。それで「今、入らないともう順番回ってこないよ！」って言われて、すごく悩んだ末に決めました。母が認知症で、最初は本当に心配で、泣きながら職員さんに相談してました。でも、入ってからは職員さんや周りの

ご家族に支えられて、母もだんだん落ち着いてきて…。



私も最初は、「施設ってどうなんだろう」と思ってたんですけど、実際に入ったら母がすごく喜んで。きれいだし、職員さんも丁寧に接してくれて。自分もやっと安心できたと感じました。



皆さん、最初は不安がありながらも、入所してからその思いが変わっていったんですね。



本当にそうですね。気持ちがだいぶ楽になりました。

家族会と「お互い様」の関係について

続いて、家族会のことについても聞かせてください。「お互い様」の関係がどう生まれていったのか。



最初は自然と、奥さんたちが集まってつながっていったんですよ。何かやるたびに「こうしたほうがいいよ」ってアドバイスをもらって、旦那さんたちも巻き込まれて(笑)。お雛様を飾ったり、行事を手伝ったり、本当に一体感がありました。



月に一回、日曜に家族会やって、持ち寄りで鍋をしたり、カラオケに行ったりしてましたよ。ほんと、家族みたいな感じでしたね。



家族会では介護のコツも学びました。「こうやって車椅子から移乗するんだよ」とか、「嚥下のことはこうだよ」とか。みんなで知恵を出し合って、図も書いて貼ってましたよ。



私もよく覚えてます。家族の皆さんと一緒に掃除したり、ピカピカキャンペーンとか盛り上がりましたよね。窓ふきして、「どこが一番きれいかな競争だ！」みたいな(笑)



あれは本当にありがたかったですね。奉優会として初めての特養で、皆さんの協力があってこそ運営できました。



誰かの家族が来られないときは、他の家族が「代わりに見てくるね」って言うてくれて。本当に「お互い様」の気持ちが自然にあって、助け合っていました。



施設の暮らしや地域との関わりも広がっていききましたよね。バザーやお花見、いかがでしたか？



バザーは大盛況でしたよ。家から品物を持ち寄って、値段決めて、朝から行列ができてました。売り上げも、花や車椅子の購入にあてられて。地域の人もたくさん来てくれました。



お花見も楽しかったですね。観光バスを借りて、みんなでお弁当を食べて、スカーフで目印をつけて写真を撮って。あれは忘れられません。



そういう経験が、自分の地域活動にも生きています。等々力の家で学んだ“支え合い”の感覚って、大きな財産です。



「今」、そして「これから」の共生社会

では、ここからは「今」と「これから」について、皆さんのお考えを伺えればと思います。



日本は2025年問題もあり、団塊の世代が後期高齢者になります。認知症の方も増えて、介護の現場はますます重要になる中で、私たちただ“介護する”だけでなく、“共生社会”を目指す必要があると考えています。

Family support group Interview



interviewer

等々力の家 施設長 多和田 真吾

 その中で、科学的介護やICTの活用が進んできました。記録も電子化され、職員の負担も軽減されて、利用者との関わりの時間が増えたのは大きな変化ですね。

 奉優会では「ケアはぴ」という独自ブランドも立ち上げて、AIを活用したケアプラン作成にも取り組んでいます。ご利用者の強みを活かした前向きなサービスが目標です。

 コロナで家族や地域との交流が減ったことは本当に残念でしたが、これからまた新しい形で「居場所」や「つながり」を取り戻していきたいと思います。

 最初は不安でしたけど、ここでたくさんの人と出会えて、本当に「入って良かった」と思えました。これからも一緒に、良い施設を作っていけたらと思います。

 等々力の家での経験が、今の自分の活動にもつながっています。「お互い様」「支え合う気持ち」を、これからも大事にしていきたいですね。

 今の職員さんも若い方が多くて、外国の方も明るくて、文化の多様さが面白いです。時代とともに変わっていくけど、支え合う気持ちは変わらず続いてほしいです。

本日は貴重なお話、本当にありがとうございました。こうして皆さまと語り合えたことを、心から感謝いたします。

 こちらこそ、いつも温かく支えてくださって、本当にありがとうございます。これからも一緒に、新しい歴史をつくっていきましょう。

 皆さんの経験を、これからの施設運営に活かしていきます。これからも、どうぞよろしくお願いします。

   こちらこそ、よろしくお願いします。ありがとうございました。



山川 純一
常務理事

水内 寿美子
人事部長

川口 有美子
常務理事

多和田 真吾
等々力の家 施設長

久保 洋子さん
家族会

畑下 洋子さん
家族会

毛利 美根子さん
家族会

思い出のページ

歩んだ日々、つながる想い。

奉優会が歩んできた25年の軌跡を、懐かしい写真とともに
振り返る「思い出のページ」。

施設の開設、地域との交流、職員の笑顔——

その一枚一枚に、仲間と共に築いてきた歴史と想いが詰まっています。

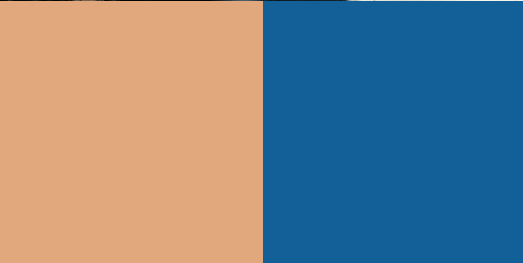
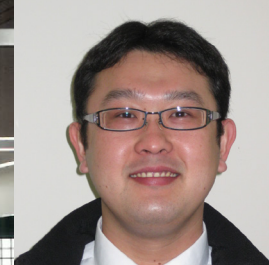
私たちの原点を確かめ、未来への一歩をともに感じるひとときです。

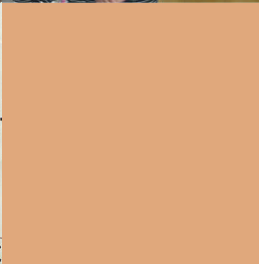
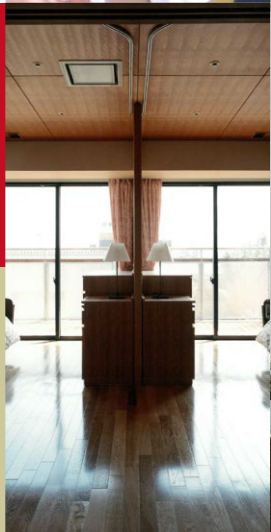


—— 天皇皇后両陛下の御行幸啓を賜りました ——

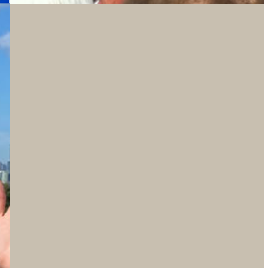
令和元年9月24日、天皇皇后両陛下におかれましては、令和最初の敬老の日に際し、当法人が運営する「目黒区高齢者センター」に行幸啓を賜りました。両陛下には、「健康応援体操」を御高覧ください、参加されていた43名のご利用者一人ひとりに温かいお言葉をお掛けくださいました。





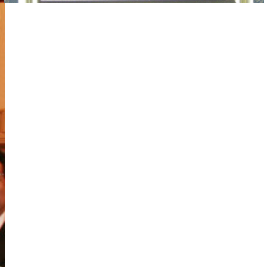








平成30年度 東京都女性活躍推進大賞 贈呈式







社会福祉法人 奉優会 事例研究発表会





入社2年目
船山 大翔

優づくり事業本部
優っくりグループホーム
豊島南長崎

入社2年目
藤原 あいり

社会福祉事業統括本部
亀戸ふれあいセンター
(亀戸老人福祉センター)

入社2年目
高野 綾美

特養事業本部
特別養護老人ホーム
ケアホームズ両国

いつの間にかご利用者が、
名前と呼んで声をかけてくれて、
変わっていく関係性に感動を覚えました。

奉優会に入職して2年目を迎えた3人の職員——
船山さん、藤原さん、高野さん。今回は新
卒1期生の水内部長がインタビュアーとな
り、現場での変化、印象的な出来事、そし
て今後に向けた思いについて語っていただ
きました。

認知機能のチェックもデジタル化されてき
ました。事務作業が効率化されて、ご利用
者と向き合う時間が増えたのが嬉しいです。

Q2. 学校での学びと現場のギャップ

現場に入って、学校で学んだこととのギャ
ップを感じることもあったのでは？

 現場に慣れるのに時間がかかりましたし、
覚えることも多くて最初は焦ってばかりで
した。でも、周囲の先輩たちが気にかけて
くれて、自然と助けてもらいながら慣れて
いくことができました。

 私は大学在籍中に初任者研修で介護を学ん
だのですが、基礎だけでは現場で通用しな
いことも多くて戸惑いました。焦らずに、
まずは先輩に聞くことが一番だと思います。

 私も最初は分からないことだらけでした。
先輩の姿を見て学んで、分からないことは
どんどん聞くようにして自立できるよう
になったと思います。

Q1. 現場に入って気づいたことや変化

では最初に、入職してから今までに感じた
変化や、驚いたことについて教えてください。

 私の所属する事業所は以前は別法人の運営
でしたが、奉優会になってから一気にデジ
タル化が進みました。紙での管理が中心だ
ったものが、ICカードや電子管理へと変わっ
てきていて、すごく変化を感じています。

 私は入職前、仕事って“てきぱき”やるイメ
ージがありました。でも実際の職場は、落ち
着いて一つひとつ丁寧に進めることが求め
られていて、ギャップがありましたが、今
はそれが動きやすくていいなと思っていま
す。グループホームでは買い物や料理、掃
除なども全部自分たちでやるので、“暮ら
しに寄り添う”感覚が新鮮でした。

 私は入社して、高齢者福祉センターを初め
て知りました。最初は紙の利用者カードを
使っていたのですが、ICカードに変わり、



Q3 印象に残っている出来事や学び

この1年間で、特に印象に残っているエピソードがあれば教えてください。



あるご入居者が、入所当初は表情も言葉もなかったのですが、関わりを重ねる中で、笑顔や会話が見られるようになったんです。ご家族も毎日面会に来られていたのですが、職員の声かけも大きかったと思います。変化を感じられたことが嬉しかったです。



私は外出を嫌がるご利用者がいたのですが、ケアマネジャーから“甘いものが好き”という情報をもって、「ケーキを買いに行きませんか？」と誘ったら、笑顔で応じてくれました。相手に合わせた声かけの大切さを学びました。



名前と顔を覚えるのに苦戦していたのですが、自分から話しかけるようにしたことで、ある日「愛ちゃん、ありがとう」と名前と呼ばれた時は感動しました。

Q4 働くうえで大切にしていること

働くうえで、大切だと思ったことや心がけていることはありますか？



やっぱり“人に頼ること”ですね。一人でできることには限界があります。最近、イベントも自

分ひとりで行うのではなく、周囲に協力してもらうようにしています。



私自身、明確な目標がないまま入職したのですが、仕事をする中で“これができたらいいな”という気持ちが少しずつ芽生えてきました。焦らず、自分のペースでやっていければいいと思います。



最初は「自分だけできない」と落ち込んでいましたが、経験年数や背景が違うのは当然。できないのが当たり前と思って、メモを取ったり、積極的に聞いたりして、環境を自分から整えるようにしています。

Q5 テクノロジーの進化と職場の変化

昔は眠りスキャンもなく、夜勤中は1時間ごとに巡回していました。今は移乗介助ロボットやインカムもあって、すごく便利な時代になりましたよね。



100kg近いご利用者の移乗は本当に大変でした。ロボットがあれば腰の負担も軽くなると思います。



藤原 私の勤務先では、Zoomやスマホの使い方講座なども行っていて、地域の方がとても喜んでくださいます。

Q6 同期とのつながり、これからの展望

同期とのつながりはありますか？



事例研究会などで顔を合わせることがあります。できればもっと他の事業所も見たいです。同期のブログなどを見ると、「この人、頑張ってるな」と刺激になります。違うサービスでも共通して“高齢者と関わる”という点では同じです。だからこそ、互いの現場を知る機会があれば嬉しいです。

Q7 最後に、これから入職する皆さんへ

皆さんにはこれからたくさん学び、悩み、そして成長してほしいと思っています。悩んだときは誰かに相談すること、新しいことを学び続ける姿勢を大切にしてほしいです。



人間関係は本当に大事です。どんなに優秀でも一人では限界があります。助け合いながら、チームで働くことの大切さを感じてください。

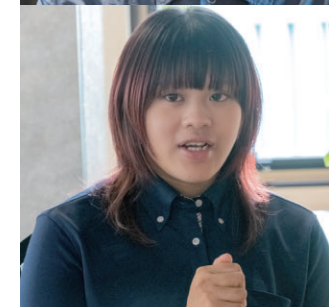


目標がなくても大丈夫。焦らずに、自分のペースで小さな達成感を積み重ねていってほしいです。



1年目はできないことが多いものです。気負わず、周囲とコミュニケーションをとって、自分の居場所をつくっていきましょう。

interviewer
人事部長 水内 寿美子





優秀賞受賞
介護士

入社6年目
成瀬 忠之

社会福祉事業統括本部
北品川ゆうゆうプラザ

夢中にご利用者のために動く職員を育て、
支えられるような存在になっていきたいと
思っています。

2019年7月パート職員として白金台いきいき
プラザに入職し、2021年4月正職員に昇格。
現在は北品川ゆうゆうプラザの事業所責任者（課
長）を務めている成瀬さんに今だからこそ語れる
想いを聞いてみました。

**ワークライフバランスの工夫や、
職員のライフスタイルについて望んでいること。**

職員の皆さまには、しっかりとプライベートも充
実させたいと、職場ではメリハリをつけて仕事
に臨んでいただけたらと思っています。
たとえば、ご利用者とお話する際に「こんなこ
とをしました」といった話題を提供できるような、
そんな心の余裕を持っていてほしいと思っています。
仕事のことはばかりを考えすぎず、笑顔で勤務で
きる毎日であってほしい。そして「ここは過ごしや
すい職場だな」と感じてもらえたら、とても嬉し
いです。私自身も、勤務中に自然と笑顔でいられ
るように、普段から自分が楽しめる時間を意識的
に設けたり、仕事と適度に距離をとる時間をつく
るように心がけています。

思い描いている、キャリアについて。

もともとは、現場でプラザをご利用される皆さま
と接することが好きで、この仕事を続けてきまし
た。現在は責任者という立場になり、日々その難
しさも感じています。

ですが、だからこそ、ご利用者のために懸命に動
いている職員を育てたり、一緒に仕事をするこ
とに強くやりがいを感じています。「この人が今、
学ぶべきことは何か？」「みんなに必要な研修は
何か？」と考えることが、今では自分にとっての
楽しみにもなっています。

かつての自分のように、夢中にご利用者のために
動く職員を育て、支えられるような存在になっ
ていきたいと思っています。

今までの現場経験から得られた学び。

本当に大人として恥ずかしいことなのですが、入っ
たばかりの頃も、最近でも、私はつい相手の話を
途中で遮（さへぎ）ってしまい、「最後まで話を聞いてくだ
さい」と注意を受けることが何度もありました。
しかし今では、それがいかに大切なことかを、改
めて実感しています。ご利用者の皆さんに対して
も同じで、傾聴し、相手の話をしっかり受け止め
ることは、信頼関係を築くうえで欠かせないと感
じています。また、話を聞き切らないまま焦って
動くことでミスにつながりやすい、ということも
実際の経験から学びました。

今は、落ち着いて相手の話を最後まで聞くこと、
そのうえで丁寧に対応することを常に意識するよ
うにしています。そうすることで、自分自身にも
心の余裕が生まれ、より良い対応ができるよう
になってきたと感じています。



地域連携・共創のこれから――

ACTION BY GLOCALIZATION

地域課題に挑む実践者を育てる福祉の現場から



日本社会は、かつてない速度で少子高齢化と価値観の多様化が進み、地域との関係が見直されつつあります。福祉の役割は、単なる支援にとどまらず、地域を育て、暮らしを変え、次世代の担い手を生み出す「社会づくりの拠点」として、より大きな意義を持つようになっていきます。

奉優会は、こうした社会の変化に応じて、「Action by Glocalization(地球規模で考え、足元から行動する)」という理念を掲げ、地域連携と共創の新たなモデルづくり

に挑戦してきました。目指しているのは、地域が自ら育つ仕組みをつくること。そして、「やりたいこと」で圧倒的な価値を生み出す人材を福祉の現場から育てていくことです。

私たちの事業は高齢者福祉にとどまらず、認知症サポーター養成講座、ヤングケアラー支援、こども食堂、法人後見など、地域のあらゆる世代と向き合い、すきま課題に応じた多様な取り組みを展開してきました。これらの実

践を通して、「連携」から「共創」へと関係性を深め、地域課題に取り組む共感者を地域の中に増やすことを重視しています。地域と共に課題を共有し、新たな価値をともに創出することこそが、共創の本質です。

奉優会では、地域に潜在するニーズを自ら発見し、課題解決に取り組む人材を、社会の未来を支える実践者として位置づけています。これは単なる人材育成ではなく、地域社会そのものを活性化する戦略です。

地域の福祉ニーズ等を把握するためのサロン活動

こども食堂・フードパントリー



オレンジカフェ



認知症サポーター養成講座



これからの福祉は、「支援する側」と「される側」という関係を越えて、「働くこと」「創ること」「稼ぐこと」を通じて地域の未来をともに築く存在へと進化していくべきです。奉優会では、高齢者の生きがい支援と若年層の就労支援をつなぐ「中間的就労支援事業」などを通じて、福祉の新しい価値創造に挑んでいます。

2040年問題に象徴されるように、現役世代の人口が激減し、高齢者が急増する時代に入っていきます。奉優

会はこの現実を「危機」ではなく「成長のチャンス」と捉え、多角化・多機能化によって地域のあらゆるニーズに応える体制づくりを進めています。医療、保育、障害、研究開発など、福祉の周辺領域と有機的に連携し、より柔軟で包括的な福祉実践を目指しています。

そしてその中心にあるのが、「人」です。福祉現場で働く一人ひとりが、社会事業家として、また地域課題に挑む実践者として、新しい未来をデザインする担い手です。

奉優会の人事ビジョン「活力のある人材育成」は、そのような人を一人でも多く育てるための原動力となっています。「やりたいこと」で社会に価値を生み出す——その可能性に満ちた人材が、地域の好循環を支えるのです。

いま、社会福祉法人には「制度の担い手」から「社会の改革者」への進化が求められています。地域包括ケアの推進、共生社会の実現、全世代型社会保障の構築。そのすべてにおいて、地域との協働が不可欠です。



祭事運営協力



ケアラー支援事業



ランとも
RUN 伴



奉優会は、これまで、そしてこれからも、時代の変化を見据えながら挑戦を続けていきます。理念「Action by Glocalization」のもと、地域に根ざし、世界に視野を持ち、やりたいことを原動力に革新を生み出す。その歩みを止めることなく、私たちは地域とともに、福祉から始まる共創社会の実現に向けて、未来を切り拓いていきます。

繋がる広がる—— 奉優会の社会貢献活動

様々なステークホルダーとの対話を通じて社会課題や奉優会への期待を知り、法人全体で取り組むことで社会への貢献を継続。これらの活動は法人HPにて情報公開しており、HP閲覧数年間3,206,000件（前年比+119,000件）となっている。これらの活動の他、成年後見制度利用促進に係る取組みとなっている「法人後見事業」を開始。



「やってみなければ分からない」という言葉が、
私が思う文化の壁を乗り越える鍵だと思います。

**日本の職場文化で驚いたこと、戸惑ったことの経験や、
自国の働き方との違いを感じた体験を教えてください。**



日本の職場では、大変真面目な方が多く、長時間労働や残業が一般的とされていますが、タイではワークライフバランスを重視する傾向があります。タイではほとんどの人が定時で仕事を終え、家族や個人の時間を大切にしている文化があります。しかしながら、日本の方々が15分前行動を基本とし、予期せぬ事態にも備え、迅速に対応する意識の高さには驚きました。私自身も学ぶべき点が多くあると感じています。



卒業して直ぐに日本語を勉強し、日本に来たので、実際にはベトナムでの正社員としてはまだ働いていないのですが、バイトとして働いていました。一番違うのは言葉かなと思います。日本には曖昧な言葉がいっぱいあり、どっちなのか迷いました。



私はフィリピン出身ですが、日本で働き始めて驚いたことの一つは高齢の方がまだ働いている姿をよく見かけることでした。フィリピンでは仕事に応募する際に年齢制限があることが多く、ファストフード店でさえも一定の年齢以下でないと応募できないことがあります。しかし日本では「働きたい」という気持ちさえあれば、年齢に関係なく働ける環境があることに感動しました。

**多様なバックグラウンドを持つ人が
一緒に働くメリットとはなんでしょうか。**



私の職場の方々は一つ一つの仕事に対して誠実、丁寧に取り組む方が多くて、そのような方々と一緒に仕事をしていると、私も気持ちを引き締めて仕事に対して真面目に取り組むことができます。そのおかげで、色々な知識が身につく、毎日成長を感じています。私も早く立派な先輩方のようになれるよう、日々努力しています。



色々な考え方やアイデアが生まれます。文化や言葉の違いがあることでどうやって伝わるのかを工夫する力が身につきます。



いろいろな考え方を持つ人と働くことで、新しいことを学べていろいろな考え方も分かるようになります。自分の成長にも仕事にもいいと思います。

**今後のキャリアビジョンや、より働きやすくするために
職場に望むこと。**



自分は色々な面で成長していきたい為、介護の仕事の中でも色々なことを経験したくて、幅広い知識などを覚えてから、介護福祉士の資格を取りたいと考えています。介護福祉士の資格を取った後は、介護に関する知識を完璧にして一つ一つステップアップしていきたいと思っています。職員に対しては、遠慮する気持ちがあるため、自分が思っていることをなかなか口に出せない方が多いと思います。難しい問題ですが、私にとって職場は心理的

に安全な場所であってほしいです。誰もがお互いを尊重して、良い聞き手となって、遠慮なく話しや自分の意見を表現できる環境。そのような環境が整えば、仕事効率の向上やストレスの軽減に繋がると思います。そうすればやる気を持って、長く勤めたいと考えるようになると思います。



もっと知識、経験を増やしていきたいと思います。職場に望むことは、だれでも安心して働けるように、わかりやすい言葉で話すことや、困ったときにすぐ相談できる雰囲気が大切だと思います。外国人スタッフも、実技の研修などがあると、自信を持って働きやすくなると思います。



まだ自信はないですが、将来はケアマネジャーの資格を取りたいと思っています。自分と同じような外国人の方に教えたり、サポートできる人にもなりたいです。母国以外で働くのは大変だと、自分が経験して分かっているからです。

**言語や文化の壁を乗り越えるために
工夫していることはありますか。**



日本で働くには日本語で会話する必要がありますが、仕事、わからない日本語が多く出てきます。言語の壁を乗り越える為、私が毎日やっている事は、生活の中で日本人の方とお話する機会を作ります。わからない日本語があればわからないままにせず、まず自分でその言葉の意味を調べて勉強します。それでもわからなければ職場の



方や友達に教えてもらって言葉の意味を理解して、日本語の学習をしています。また、文化の違いを受け入れ、尊重します。そしてその国の人々に自分のライフスタイルを合わせます。「やってみなければ分からない」という言葉が、私が思う文化の壁を乗り越える鍵だと思います。そこで、今までやったことがないこと、食べたことがないもの、知らなかったことに挑戦してみました。実際にやってみると、新しい環境は怖いものばかりではないと気づきました。それは私にとって自分自身を成長させることを学ぶ機会になりました。



言葉が通じやすいように簡単な言葉で話します。施設では、翻訳機を購入してくれました。



毎日日本語で話したり、まわりの人のやり方を見て学ぶことが大切だと思います。前の日本人の上司が「ローマではローマ人のするようにせよ」と言っていて、その言葉が今でも心に残っています。

interviewer

人事部長 水内 寿美子

入職3年目
ティーバク
ディー
ティティボン
(トゥーイさん)

社会福祉事業統括本部
仲町高齢者在宅
サービスセンター

入職4年目
チンティライ
(ライさん)

特養事業本部
特別養護老人ホーム
幸優の家

入職6年目
モンティシリョ
シンデレラ
メイリベラ
(エラさん)

特養事業本部
優つくりショートステイ
新宿西落合



奉優会が誇る、企業としての体力・成長力・多様性

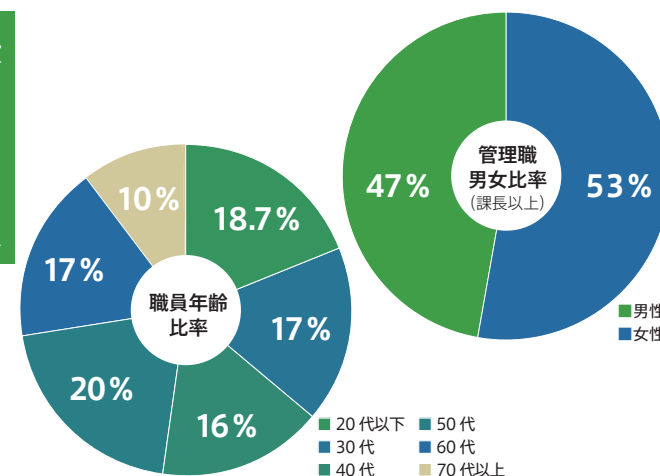
私たち社会福祉法人奉優会は、多様なサービスと人材で地域に根ざした福祉を実現しています。現在158の事業所で、約3,000人の職員が一人ひとりの暮らしを支え、外国籍職員や若手人材も多く活躍しています。年次有給休暇取得や育児支援の制度も充実しており、働きやすさと個人の成長を両立できる環境が整っています。本ページでは、

私たちの取り組みを「数字」で可視化し、奉優会の現在地と未来への可能性をお伝えします。職員数や年齢構成、管理職の男女比、育児休業の取得率、そして多様な研修制度の整備状況など、どの数字も一つひとつが「人」を起点とした経営の証です。働く人々の背景が多様であるからこそ、柔軟で創造的な福祉のかたちが生まれています。

男女比や年代もバランスよく、さまざまな価値観が交わる職場だからこそ、柔軟で創造的な福祉のかたちを生み出しています。「人が育ち、地域が育つ」その理念のもと、奉優会はこれからも、地域共生社会の実現に向けて挑戦を続けてまいります。



- ・特別養護老人ホーム
- ・通所介護
- ・認知症対応型通所介護
- ・居宅介護支援事業
- ・地域包括支援センター
- ・老人福祉センター
- ・区民センター
- ・短期入所生活介護
- ・軽費老人ホーム
- ・認知症対応型共同生活介護
- ・在宅介護支援センター
- ・就労支援センター
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・看護小規模多機能型居宅介護
- ・訪問介護
- ・保育事業
- ・ファミリーサポートセンター
- ・カフェ事業
- ・法人後見人事業
- ・認知症高齢者グループホーム



無許可保育園の保育費の一部を法人が負担する制度です。
※令和5年度申請人数は3人
令和6年度は1人



法人理念への想いと未来への期待

社会福祉法人奉優会は、本年度創立25周年を迎えました。この節目の年を迎えるにあたり、これまで当法人を支えてくださったすべての職員の皆さま、関係者の皆さま、ご利用者とそのご家族、そして地域の皆さまに、心より御礼申し上げます。

私自身が奉優会に関わるようになったのは2009年5月のことでした。常務理事として経営に携わり、以後14年間、現場や制度の変化に向き合いながら、組織の改革と挑戦に取り組んでまいりました。そして2023年5月、理事長に就任する機会をいただきました。大きな責任を痛感するとともに、これまで関わってくださった全ての方々と共に築いてきたこの法人の価値を、さらに高めていきたいと心から願っております。

私が理事として関わり始めた頃の奉優会は、姉妹法人の人材育成機関という位置づけにあり、そのロゴマークも介護士の優しい手の手のひらをモチーフとしたものでした。確かに、その温もりや親しみやすい品質や技術力はあったかもしれませんが、私はこのままでは社会福祉法人としての独立性や、公共性・公益性といった本質が曖昧になってしまうという危機感を持っていました。

そこで、法人としての自立と進化を象徴する改革に踏み出したのが、2018年頃に行ったロゴと理念のリニューアルです。新しいロゴには、"Local - People - Grow - Life - Innovation - Global" の6つの美德を循環させるモチーフを採用し、「人の輪」が新たな社会のかたちを創り出す姿を象徴しました。また、新たに掲げた理念「Action by Glocalization」は、「地球規模で考え、足元から行動する」という信念の表明であり、「地域の人々が育つことで、生活が革新する」新しい資本の仕組みを、多様な世界で発信していくという志の表れでもあります。

この理念は、私が理事長に就任した際の寄稿文にも記したように、決して一時のスローガンではなく、奉優会が中長期的に取り組むべき経営の土台そのものです。私たちは「やりたいことで、圧倒的な価値を生み出す」というミッションを、職員一人ひとりの成長を重ね合わせながら実現していくことを目指しています。その結果として、地域に暮らす人々の生活が、より自立的に、より創造的に変化していく。それが私たちの願う「生活の革新」であり、社会福祉法人として果たすべき新しい社会的責任だと考えています。

このような理念を具現化するため、奉優会は「グローカルプラン2020」と題した中長期経営計画を推進し、特別養護老人ホームをはじめとする地域密着型事業の強化、ヤングケアラー支援、福祉現場のDX推進、人材育成の充実に取り組んでまいりました。人材面では、単なる介護人材ではなく、福祉の担い手＝社会事業家(Social

Entrepreneur)としての職員育成を掲げ、「福祉で世の中を変えたい」と願う若者たちが力を発揮できる環境整備に力を注いでいます。

現在、私たちの法人は、単に「事業規模が拡大した」という事実以上に、社会のなかで果たすべき新しい役割を自覚し始めています。例えば、高齢者ケアだけでなく、地域福祉の包括的なプラットフォームとしての責任。また、行政制度の枠を超えて、民間ならではの機動力と創意工夫をもって、福祉の新たなモデルを提示する役割。こうした挑戦こそが、これからの奉優会の価値を形づくるのだと確信しています。

未来に向けて、奉優会は更なる飛躍を目指しています。私たちが掲げる経営ビジョンでは、2030年度までにサービス活動収益300億円、当期活動増減差額15億円という目標を掲げています。単なる数値目標ではなく、それを支える職員一人ひとりの力と、「やりたいことを実現できる職場づくり」への投資が不可欠です。経営統合や連携による事業基盤の強化も進めながら、全国的に存在感を持つ法人へと進化していきます。

今後、少子高齢化、人口減少、制度改革といった多くの外部環境の変化が続くなかで、私たちが目指すのは「地域共生社会」の実現です。地域住民、職員、利用者、行政、事業者など、あらゆるステークホルダーがそれぞれの役割を発揮し、相互に信頼と連携で支え合う地域社会の構築を開発します。その実績と価値を全国に示し、奉優会を「プレゼンスの高い社会福祉法人No.1」に成長させていくことが、私の大きな使命だと感じています。

25年の歩みを振り返るとき、そこには決して平坦ではない道がありましたが、一貫して「人に向き合う」人的資本経営という姿勢を貫いてきたことが、奉優会の本質であり、力の源だったと思います。これからの10年、さらにその先の未来もまた、私たちは理念に立ち返りながら、職員・地域の皆さまとともに、新たな価値の創造へと挑戦し続けます。

この四半世紀にわたるご支援に深く感謝申し上げますとともに、引き続き変わらぬご指導とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

そして最後に、奉優会のこの25年を語るうえで、私の父であり初代理事長を務めた香取 勲(2008年 在任中に逝去・享年 73歳)、そして二代目理事長を務めた母・眞恵子の存在に触れずにはられません。二人は、法人創設期の混乱や挑戦の中で、幾多の困難と向き合いながら、法人の基礎を築いてくれました。そして、その理事長たちを支え、ともに歩んでくださった兄・幹や歴代の評議員、理事、関係者の皆さまにも、心からの敬意と感謝を申し上げます。



社会福祉法人 奉優会
理事長

香取 寛



社 会 福 祉 法 人 奉 優 会 法 人 管 理 本 部

〒154-0012
東京都世田谷区駒沢 1-4-15 真井ビル
TEL: 03-5712-3770
FAX: 03-5712-3771
<https://www.foryou.or.jp/>

